



長年の功績たたえて

昨年、市内で叙勲を受章された3人の合同祝賀会が2月26日、恵那峡のホテルで開かれました。受章されたのは、旭日双光章の畑村定雄さん(元上矢作町長)、旭日中綬章の森川正昭さん(元恵那市長)、旭日単光章の伊藤峯夫さん(元岩村町議会議員)の3人。祝賀会には約230人が出席し、長年の功績をたたえ受章を祝いました。3人は「皆さんの支えがあってここまで来ることができました」とお礼の言葉を述べていました。

受章を喜ぶ畑村さん、森川さん、伊藤さん3夫妻(左から)



おひな様と音楽会

中山道ひし屋資料館では2月22日、ひな祭り展「飯地町に伝えられたお雛さま」の開催と合わせ、地元飯地保育園の園児たちによる「ちびっ子音楽祭」が開催されました。欠席者を除く全16人の園児がひな人形の前に整列し、「うれしいひな祭り」など6曲を披露しました。歌い終えた園児たちは、明治から昭和初期にかけて飯地町で飾られた、現在のものとは少し雰囲気の違いのおひな様などを興味深く見て回りました。

体を動かし元気よく歌う園児

モンゴル800年祭来て

3月3日、モンゴルの首都ウランバートル市スフバートル区のビャンバジャブ・バルドルジ代表が、モンゴル出身の歌手オユンナさんと市役所を訪れ、建国800年記念イベントなどをPRしました。

市長は「上矢作町が続けてきた交流を大切にしていきたい。恵那市は緑と歴史文化の香るまち。モンゴル国にも紹介を」とあいさつ。一行はこの後、上矢作町のモンゴル村や上矢作中学校を訪れました。



バルドルジ代表と握手する可知市長

あけちクラブが誕生

2月25日、明智町のかえでホールで市内では2つ目となる総合型地域スポーツクラブ「あけちクラブ」(藤崎和俊理事長)の設立記念大会に関係者約180人が参加しました。同クラブは、昨年2月から小中学生のクラブが活動しており、4月からは一般を対象に活動を展開します。こども向けにいろいろな遊びの体験をするサークル活動、老化を防ぐ健康づくり教室、ボランティアなど幅広い活動が計画されています。

設立記念大会で表彰を受けるスポーツ優秀選手ら



青空の下、駆け抜ける

3月4日まきがね公園を発着点として、第5回恵那峡ハーフマラソンが行われました。当日は雲ひとつない晴天に恵まれ、県内外から904人が参加。青空の下、中央アルプスや田園風景を楽しみながら一生懸命走る姿が見られました。ゲストには土岐商出身でアスビー食品で活躍する揖斐祐治さんが10^{キロ}のクオーターマラソンに参加。ゴール後は参加者からサインや握手を求められ、笑顔でそれに応えていました。

みんなの声援を受け、一斉にスタートを切る参加者



伝統の芸能と味が集結

新市合併記念伝統芸能大会「芸と食の伝統文化」が2月26日、恵那文化センターで開催され、市内14の伝統芸能保存団体が参加、市内の物産展も開催され、多くの皆さんでにぎわいました。

大会には、山岡町の白山比咩神社獅子舞保存会をはじめ歌舞伎、太鼓、文楽など特色ある伝統芸能が演じられたほか、ほう葉すし、よもぎ大福など地域の物産を販売する味の伝統にも人気が集まっていました。

最後の演目「お目見えだんまり」で見えを切る皆さん



身近なこと版画に表現

3月12日、中山道広重美術館で第2回広重賞市子ども版画コンクールの表彰式が開催され、全2,011点の作品から選ばれた特別賞11人と奨励賞29人に表彰状が渡されました。入賞作品は自分の体験したことや友だちなどの身近なものから歌舞伎の場面を題材にしたものまでさまざま。構図や彫り方が工夫された見事な作品が多く、美術館2階の展示室では多くの皆さんが観覧し、入賞者が作品と記念写真を撮る光景も見られました。

広重賞の表彰を受ける宮地慶樹君



人の命の大切さ学ぶ

3月5日、恵那文化センターで市少年消防隊の終了式が開催されました。隊員135人のうち小学校を卒業する修了者40人に修了証が渡されたほか、3年間皆勤した隊員10人をはじめ93人に皆勤賞が渡されました。今年で修了する隊長の安田力斗君（武並小6年生）は、「消防隊で学んだ火の怖さ、人の命の大切さや貴重な体験を生かし、火災のない明るいまちづくりに心掛けたい」とお礼の言葉を述べました。

お礼の言葉を述べる安田力斗君

恵那の味に新感覚

恵那の伝統料理の伝承活動を進める農業女性グループ恵那アグリエンジョイネット（中崎喜美子会長）は、3月15日、恵那文化センター調理室でフランス料理講座を開催しました。中津川市のレストランシェフ納戸孝弘さんは、新しい食材、片仮名の難しい食材もわかりやすく、家庭で作る時のコツも交えて伝授。恵那の味ではプロともいえる参加者19人は、調理のコツや身近な食材を生かすことについて真剣に学んでいました。

本格的なフランス料理の手法を学ぶ皆さん



一緒に大きくなろうね

3月9日、東野小学校6年生の児童15人が、卒業を前に保古ノ湖畔にて卒業記念植樹を行いました。東野小学校では山に自ら木を植えることで、いつまでも故郷に愛着を持ってもらおうと、東野生産森林組合（光岡克昌組合長）の協力を得て卒業生たちが毎年実施しています。山に入った児童たちは根の張った地面に悪戦苦闘しながら穴を掘り、背丈1mあまりのケヤキやハナノキ約40本を丁寧に植えました。

穴を掘り苗木を植える児童



いざオーストラリアへ

平成18年度青少年海外派遣事業開会式が、3月18日恵那市役所で行われ、派遣候補生として作文や面接で選抜された市内の中学生20人が顔を合わせました。この取り組みは、国際交流協会（伊藤喜美会長）が国際社会の一員として、未来を担う人づくりを目的に毎年実施。13回目となる今回は、7月24日から11日間、オーストラリアでのホームステイを予定しています。生徒たちは出発までに10回程度の研修を受け、事前準備を整えます。

オーストラリアへの意気込みを語る派遣候補生



太鼓の魂いつまでも

3月10日、串原中学校で中山太鼓の免許状授与式が行われ、三宅通昭保存会会長から保存会少年部として活動した卒業生10人に免許状が渡されました。

式典では卒業する部員が3年間学んだ中山太鼓を披露したほか、部員全員で回り打ちをして、太鼓で伝統の心技を後輩に伝えました。太鼓部長の大嶋幸樹君は、愛地球博での演奏したこと、伝統芸能を受け継ぐ難しさや大切さを学んだことなどを話しました。

地域の先輩から学んだ中山太鼓魂を太鼓に込める部員ら